

安全性向上に向けた取り組みの対外発信・ リスクコミュニケーションについて

平成29年9月21日

01 | 浜岡原子力発電所の周辺地域について

- 発電所は静岡県御前崎市に位置しています。
- 発電所から周辺31km圏内には、11市町（※）の行政区が含まれており、総人口は約94万人です。
（PAZ+UPZ圏内 約84万人）

（※）御前崎市、牧之原市、掛川市、菊川市、島田市、磐田市、焼津市、藤枝市、袋井市、吉田町、森町



●人口 単位：人	
PAZ圏内(2市)	47,951
PAZ+UPZ圏内(11市町)	839,450
11市町の総人口	941,050

平成28年4月1日現在

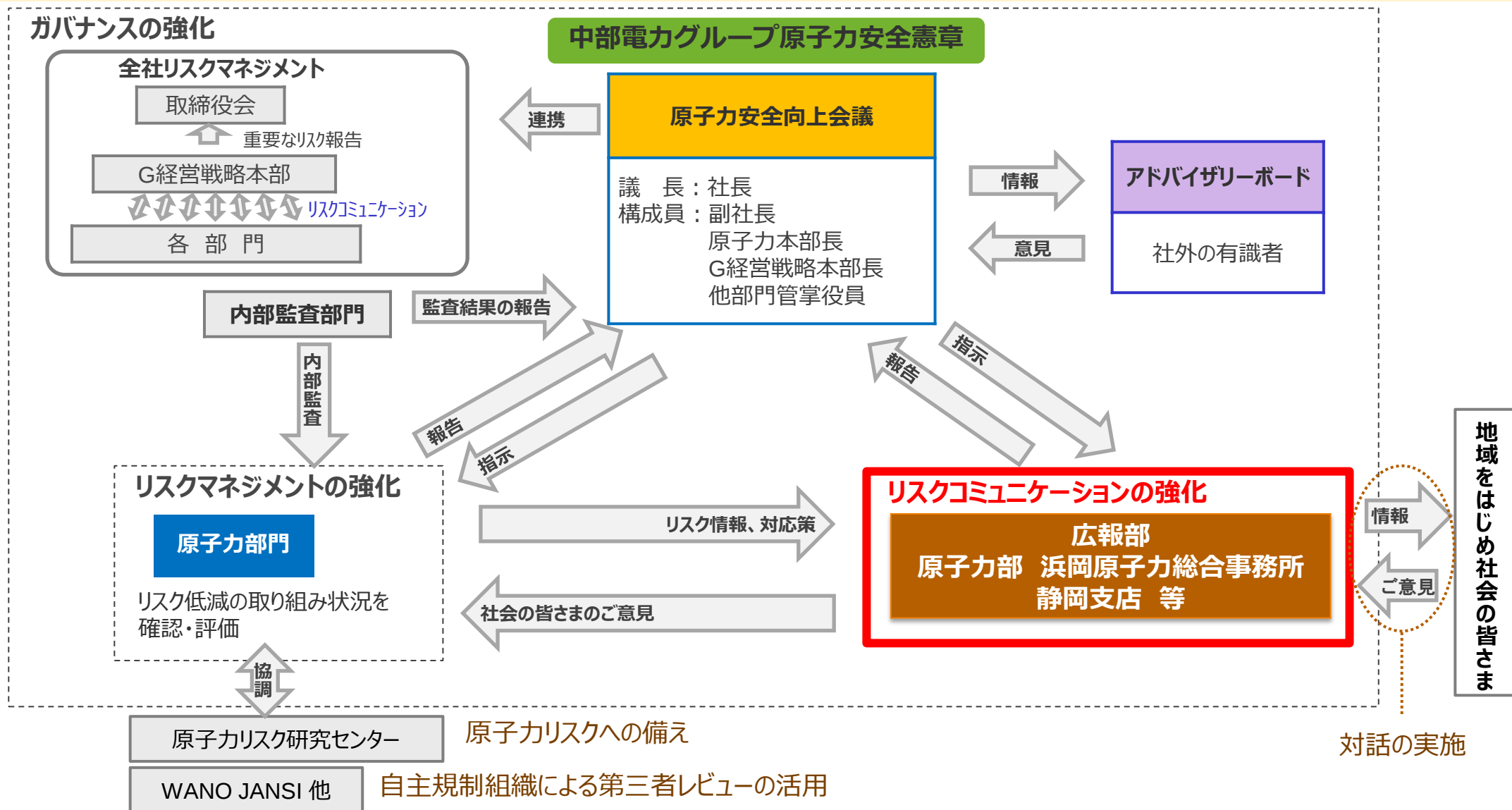
●人口 単位：人	
御前崎市	34,273
牧之原市	46,774
掛川市	117,520
菊川市	47,823
計	246,390

平成28年4月1日現在

（参考）静岡県「浜岡地域原子力災害広域避難計画」（平成29年3月修正版）

02 | 当社のガバナンス体制

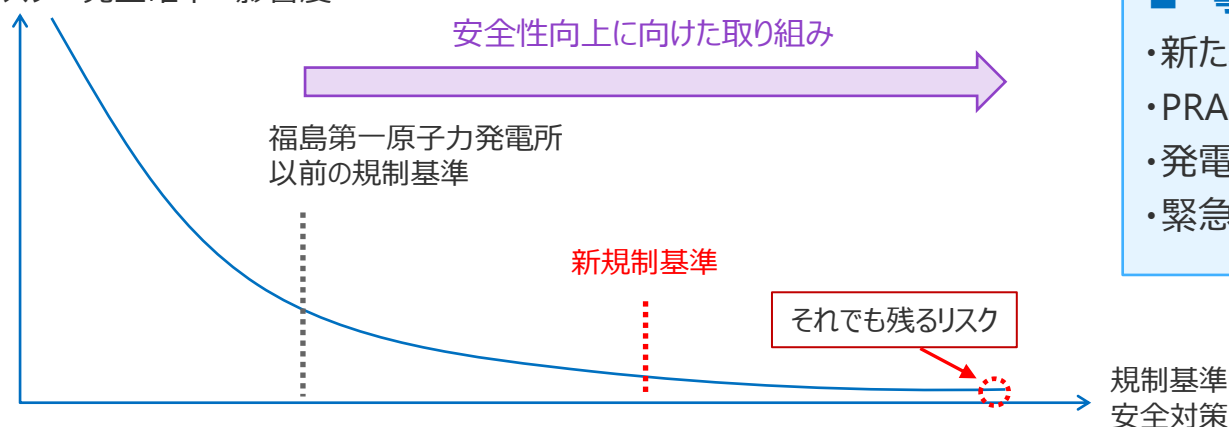
- 当社は、原子力発電の継続的な安全性向上を実現するため、トップマネジメントのもと、原子力のリスクマネジメントの強化とともに、「リスクコミュニケーションの強化」に取り組んでいます。



- 当社は、原子力のリスクを限りなくゼロに近づけるため、新規制基準適合性確認審査への対応とともに、安全性向上対策に取り組んでいます。
- 「対話」を通じて、地域の皆さまの不安や疑問に向き合い、原子力の必要性やリスクについて共に考えるとともに、「マス媒体」を通じて、安全性向上に向けた取り組みや原子力発電所で働く人の姿を紹介しています。

■ リスク低減の取り組み

リスク = 発生確率 × 影響度



■ 事業者の取り組み

- ・新たな知見（設備、運用等）の積極的な活用
- ・PRA等を活用した安全性向上対策の実施
- ・発電所における技術力（運転、保守等）の維持・向上
- ・緊急時対応能力の維持・向上 など

（参考）経済産業省ホームページ「日本のエネルギーのいま」をもとに作成



□ 対話

リスクコミュニケーションを意識した対話

- ・意見交換会
- ・訪問対話
- ・発電所キャラバン



□ マス媒体

安全性向上に向けた取り組みの紹介
原子力発電所で働く人の姿の紹介

- ・テレビCM
- ・新聞広告
- ・SNS(Facebook)



- 地域の皆さまとの信頼関係の構築を目指し、リスクコミュニケーションを意識した積極的な対話を各地で展開しています。

目指す姿

状態3：対話の場が広がっていく状態
→リスクコミュニケーションを意識した
対話の各地域・各種団体への展開

状態2：対話が十分にできない状態
→リスクコミュニケーションの強化

状態1：原子力に対する不安が広がった状態
(平成23年3月11日
東京電力(株)福島第一原子力発電所事故の直後)

状態4：信頼関係が築かれている状態
→地域の皆さまとの対話の継続

■「対話」の実施に向けた準備

- ・人材の育成（研修の実施）
- ・対話ツールの整備

■「対話」の実施

- ・意見交換会、訪問対話等

■皆さまの声の集約・反映

- ・意見交換会等でいただいたご意見の集約と反映

- 地域の皆さまの不安、疑問、ご意見をお聞きし共に考えるため、対話を行う社員を対象にリスクコミュニケーション研修を実施しています。また、対話のときに用いるイラストやデータ集、DVDなどを作成し、活用しています。

人材の育成（研修の実施）

■ リスクコミュニケーション研修

リスクコミュニケーションの考え方を学び、双方向コミュニケーション力の修得を目的に実施しています。

講師	・木下富雄氏(京都大学名誉教授) ・土屋智子氏(NPO法人HSEリスク・シーキューブ理事・事務局長)
研修内容	・リスクコミュニケーションの考え方 ・意見交換会を想定したロールプレイング
開催回数	平成28年度：8回、平成29年度：7回（予定）
参加者数	平成28年度：93名、平成29年度：約80名（予定）



研修の様子



ロールプレイングの様子

対話ツールの整備

■ 対話用ポイント集、データ集

エネルギー問題や発電所の安全対策、オフサイト対応、高レベル放射性廃棄物の最終処分などの基本情報をイラストやデータなどにまとめるにあたり、社外のリスクコミュニケーションの専門家による助言を取り入れながら作成しました。



■ 問題提起型DVDの概要

エネルギー問題について事実のみを客観的に伝えることで、考えるきっかけとなるDVDを整備し、対話の場の導入として活用しています。

タイトル	Think Together 光と影 豊かなくらしとエネルギー
内容	自給率や温暖化の問題からエネルギー事情について考える。
シーン	意見交換会の導入に活用



- 当社は、「意見交換会」を信頼関係構築を目的としたリスクコミュニケーションの中核となる活動と位置づけ、重点的に取り組んでいます。

意見交換会

発電所の周辺自治会や女性団体等との意見交換会を企画・開催するとともに、行政主催の意見交換会にも参加しています。

・意見交換会への参加・実施

	行政主催	自治会との共催
御前崎市	2回実施	(1巡目) 8地区中、7地区実施 (2巡目) 8地区中、6地区実施
牧之原市	1回 (4回シリーズ) 実施	10地区中、1地区実施
掛川市	—	32地区中、8地区実施
菊川市	—	(1巡目) 全11地区実施 (2巡目) 11地区中、4地区実施

平成27年10月～平成29年8月末時点

・女性団体との意見交換会「しゃべり場」

女性に関心の高い企画（アロマテラピー、ヨガ等）とともにエネルギーに関する情報提供をきっかけとした意見交換会を実施しています。

実績：18回実施（平成28年1月～平成29年8月末時点）



意見交換会



しゃべり場

訪問対話

平成26年9月から、御前崎市はじめ周辺3市にお住まいの方を対象に、訪問対話を実施しています。
(訪問対象:約84,000戸＜約1年半で1巡＞)

実績：平成29年3月までで2巡目終了
平成29年5月から3巡目開始
対話率：約55%（2巡目終了時点）



発電所キャラバン

平成26年6月から、御前崎市および周辺3市において、地域のイベントやショッピングセンター等にブースを設置し対話を実施しています。

実績：平成26年度 9箇所開催
平成27年度 12箇所開催
平成28年度 19箇所開催
平成29年度 10箇所開催（8月末時点）



発電所見学会

発電所の安全性向上に向けた取り組みを現地で直接ご覧いただいています。

累計見学者数：164,756名
(平成24年度～平成29年8月末時点)



- 牧之原市主催で、地域の皆さまを対象とした意見交換会（全4回）が開催され、当社社員も参加しました。
- 参加された方からは、「現場を実際に見たい」「若い世代を含めた学ぶ場がほしい」などの活発なご意見が出されました。
- 牧之原市からは、今後もこのような意見交換会を継続していただけると聞いており、当社としても積極的に参加していきたいと考えています。

「牧之原市の暮らしとエネルギーを考える」意見交換会

項目	内容
実施概要	・「講演会（情報提供）」と「ワークショップ」の2部構成 ・牧之原市住民、当社社員などを8グループに分けグループワークを実施（役割分担は右記参照）
各回実施内容	【第1回】平成28年9月9日 講師：西原茂樹氏（牧之原市長） 内容：趣旨説明、発電所立地の経緯について 【第2回】平成28年9月27日 講師：桜井勝延氏（福島県南相馬市長） 内容：福島の実状と課題 【第3回】平成28年10月24日 講師：秋庭悦子氏（NPO法人あすかエネルギーフォーラム理事長、元内閣府原子力委員会委員） 内容：日本のエネルギー事情 【第4回】平成28年11月14日 第1回～第3回までの内容についてのまとめを受け、グループワークを実施

＜グループの構成と各役割＞



市民ファシリテーター(※)・・・1名
・会の進行役、意見交換を促す

(※)牧之原市では、「対話によるまちづくり」の取り組みの一つとして、講習を受けた市民の方に、市民協議会の進行役（ファシリテーター）や全体の運営を任せています。



行政職員・・・1名
・主に書記、市民ファシリテーターのフォロー



牧之原市住民・・・4名～6名



当社社員・・・1名



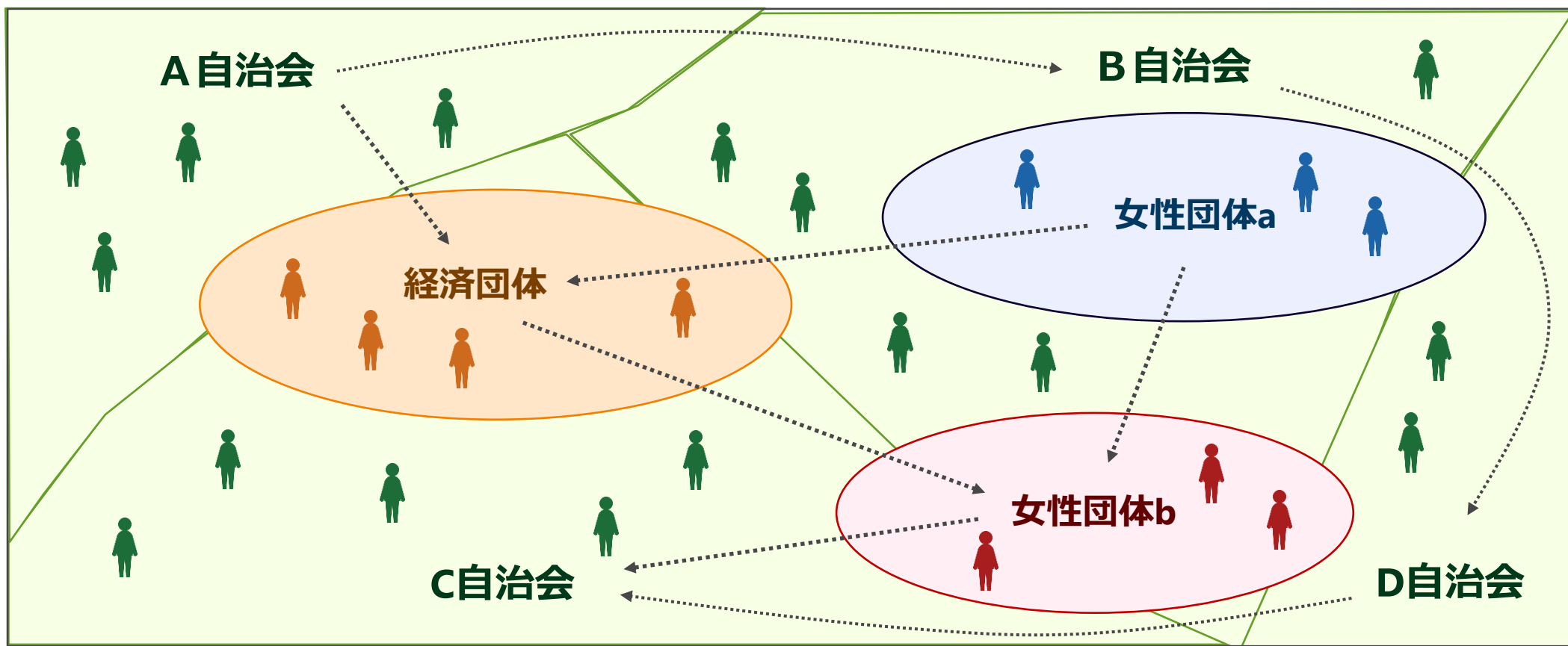
ファシリテーターによる進行



グループワークの様子

- 地域の多様な方々に参加いただくことが重要と考え、各自治会を対象に意見交換会を開催しています。
- また、各種団体へ働きかけ、新たな場をつくることで、一人でも多くの方と対話できるよう取り組んでまいります。

対話の場の広がり（イメージ）



当初は、意見交換会の開催に消極的な地区が多かったが、現在は「自分たちの自治会や会合でもやってもいい」という声をいただくなど、各地域や各種団体へ対話の場が広がっています。

- 「安全性向上に向けた取り組み」や「働く人の姿」について、テレビCMやテレビ番組、新聞広告、Facebookなどを通じて紹介しています。

テレビCM



「浜岡で働く 監視・点検」篇



「浜岡を支える 防波壁」篇



安全性向上対策工事とその担当者の姿を通じて、安全に対する当社の姿勢、思いを知っていただくことを目的に「浜岡を支える」シリーズを制作しています。

働く社員の姿を通じて、浜岡原子力発電所に関心を持っていただくことを目的に「浜岡で働く」シリーズを制作しています。



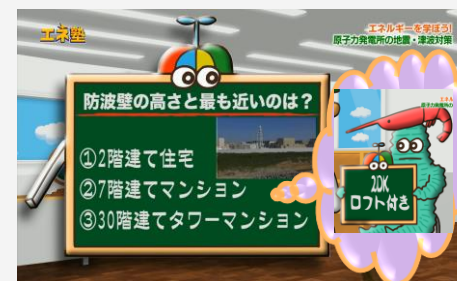
新聞広告



Facebook

テレビCMに加え、新聞広告や、電車・バス内での交通広告、駅貼広告を展開しています。また、ホームページや、FacebookにおいてもPRを実施し、複数のマス媒体を組み合わせ、情報発信しています。

社外有識者からの情報発信



テレビ番組（エネ塾）



記事体広告（エネルギーを考える）

有識者やアニメキャラクター等を用いて、安全対策の取り組みを分かりやすく情報発信しています。

- 当社は、原子力のリスクを限りなくゼロに近づけるため、今後も、不断の安全性向上に取り組むとともに、万が一に備えた原子力災害対策の充実・強化を図ってまいります。
- これらの取り組みをお伝えしていくため、下記①②を実施してまいります。



① 科学・社会的観点に立脚した広報・対話

・原子力のリスクマネジメントにおいて、今後さらにPRA等の活用が進むことから、これらの科学的根拠に基づいた情報を、地域の皆さまがどのように受け取るかといった社会的観点を考慮し、お伝えしていきたいと考えています。

② 人間に立脚した広報・対話

・不断の安全性向上に取り組んでいるのは、保守や運転を担っている「人間」とあるという認識に立ち、当社の顔の見える「対話」を継続していくとともに、原子力発電所で働く人の姿を「マス媒体」を通じてお伝えしてまいります。
(送配電は「人間」の姿が見えるが、原子力発電所は見えにくい。)



① 論理性



② 共感性

信頼関係の構築（対話）



当社は、これからも、地域の皆さまからの不安・疑問に向き合い、原子力の必要性やリスクについて共に考え、理解を深め合うことにより、信頼を醸成していきたいと考えています。

- 浜岡原子力発電所では、過去に経験した事故から得られた教訓を風化させることなく将来に技術伝承していくため、「失敗に学ぶ回廊」を原子力研修センター内に設け、研修に活用しています。
- また、発電所見学会でご覧いただいたり、テレビCM等のマス媒体でもご紹介しています。



原子力研修センター



車座の間

失敗事例に学んだことを、膝をつき合わせて語り合うことでより理解を深めます。
また、若手社員への技術伝承や国内外の電力会社の方との意見交換の場として活用しています。

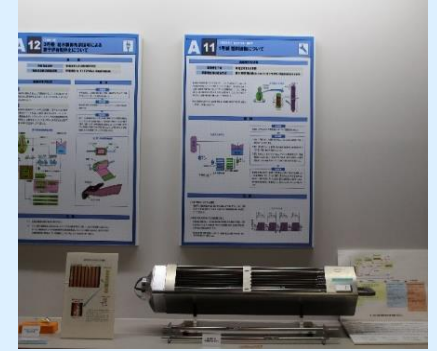
事故発生状況や原因、対策について紹介するパネルの他、事故を起こした実際の機器や模型などを併せて展示しています。



配管破断事故（実物）



事例の紹介コーナー



説明パネル

テレビCM「浜岡で働く 教育」篇



教育現場や研修風景をお見せすることで、当社の取り組みや技術伝承へかける思いを伝えています。

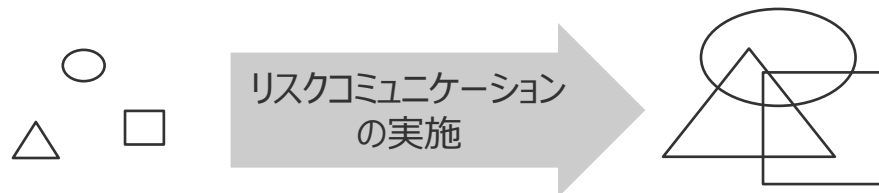


「共感し」、「共に考える」リスクコミュニケーションは信頼関係を築く土台であり、「理解獲得を図る」P Aとは補完し合う関係にある。

①リスクコミュニケーション

地域をはじめ社会の皆さまの原子力へのご不安、懸念等について、ポジティブな側面だけでなく、リスクについても公正に情報発信・共有し、共に考えることにより、信頼関係を構築する。

<イメージ>



異なる考え方や情報を持つ人たちの間で、情報を共有し、それぞれの考え方に至る背景を知り、共に考えることで、自分の考え方を变えることには至らなくとも、共通点を見出し、信頼が醸成される。

②P A

原子力の必要性や、浜岡の安全性について、地域をはじめ社会の皆さまにご理解いただけるよう、技術的・専門的な内容をわかりやすく説明し、合意形成を図る。

○ 意見交換会等でいただいたご意見の集約と反映。

■ いただいたご意見（例）

1. 意見交換会等で「防波壁以外の対策を知らなかった。」という意見をいただいた。
2. 訪問対話で安全対策以外にも原子力発電の必要性や放射線関連についての問い合わせをよくいただいた。
3. 女性を対象とした「しゃべり場」の中で「親子でエネルギーを考えられる資料がほしい」というご意見をいただいた。

■ 当社の対応

1. 防波壁以外の安全対策についても、テレビCMや新聞広告等で積極的に広報活動を行っている。
2. 資料を定期的に見直し、原子力発電の必要性や放射線関連についての資料を拡充している。
3. 発電所周辺地域で配布している地域情報誌に、母親と子どもが一緒にイラストを見ながらエネルギーを知り、考えていただけるようなページを掲載している。

